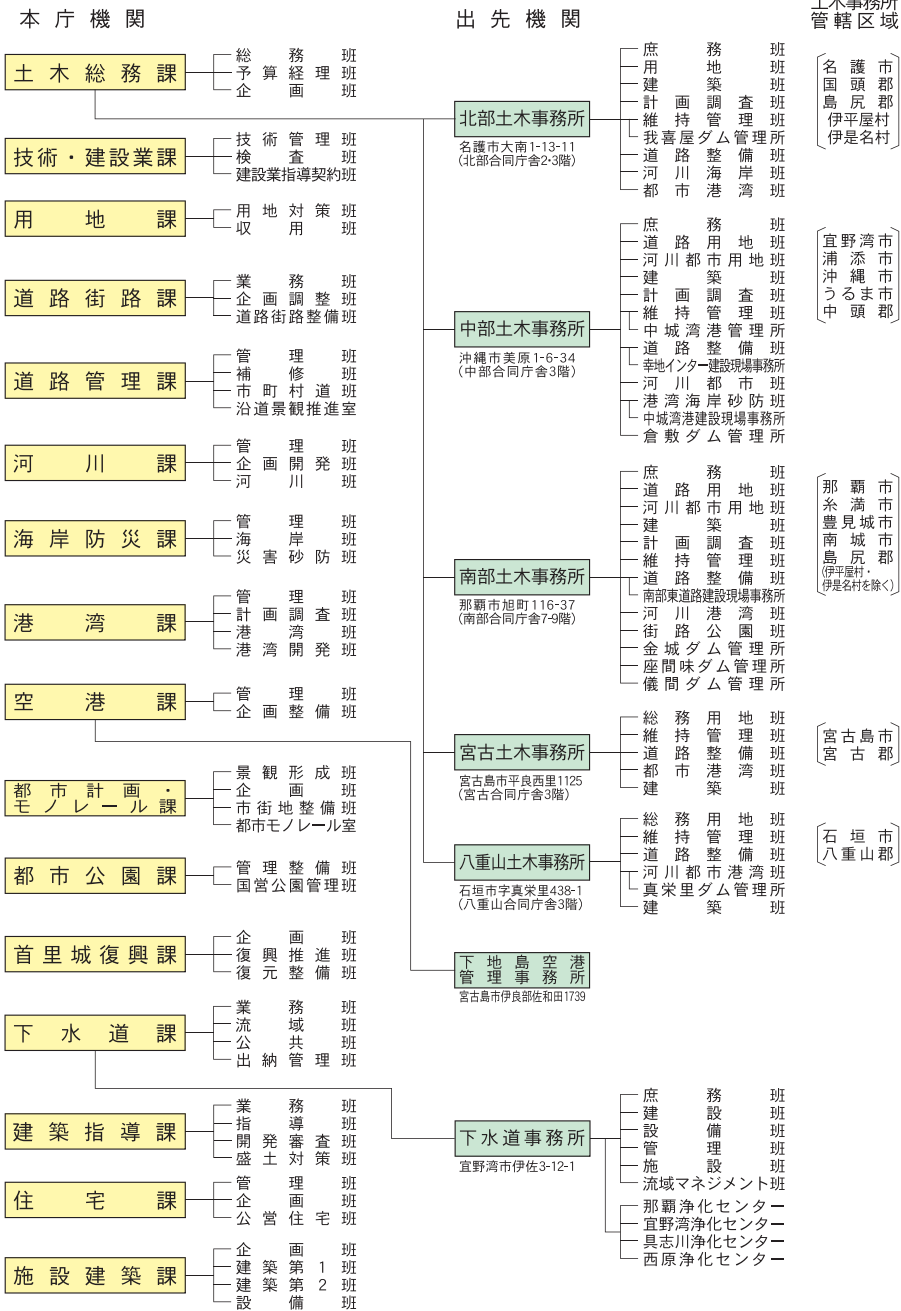


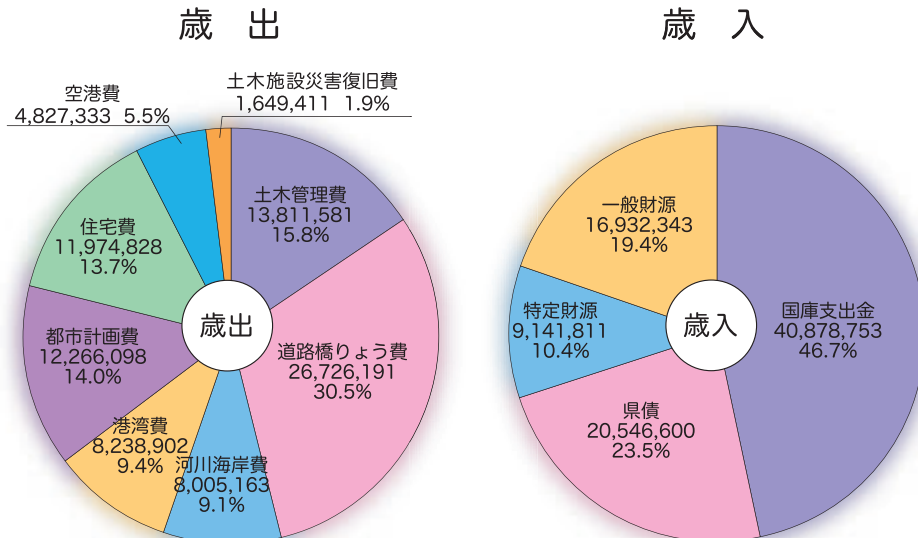
1 組織・予算

■土木建築部の組織(令和8年4月1日)

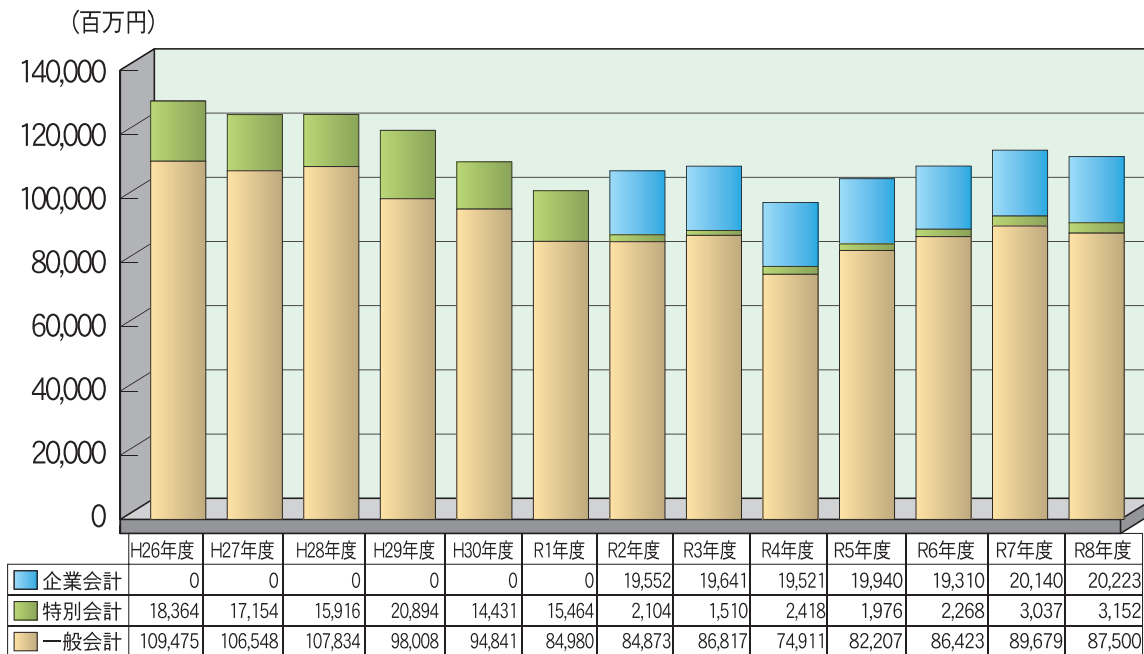


■令和8年度土木建築部予算(一般会計)

総額 87,499,507千円



■土木建築部の予算(当初)の推移



2 道 路

■事業概要

本県は、陸上交通のほとんどを道路に依存しており、平成15年の沖縄都市モノレールの開業により、那覇市域で新たな公共交通手段の選択が可能となったものの、道路は依然として県民の暮らしと産業活動を支える上で、重要な役割を果たしている。

しかしながら、依然として続く自動車保有台数の伸びや市街地の拡大により都市部の交通渋滞は著しく、都市機能・産業経済活動への支障や生活環境の悪化を招いている。また、離島・過疎地域では、若年層の流出に伴う人口減少や高齢化による集落機能の低下が続いている。

このため、都市部の交通円滑化や地域連携を強化する骨格道路網の形成や、離島・過疎地域の住環境や利便性の向上を図る道路の整備に取り組んでいるところである。

令和8年度においては、沖縄21世紀ビジョンの重要課題として位置づけられた交通体系の整備を図るため、広域交通拠点（那覇空港、那覇港等）と各圏域拠点を有機的に結ぶ那覇空港自動車道、沖縄西海岸道路、名護東道路、南部東道路等の体系的な幹線道路網（ハシゴ道路ネットワーク）の構築に取り組むとともに、那覇都市圏の交通の円滑化を図る環状道路等（2環状7放射道路）の整備や主要渋滞箇所における渋滞ボトルネック対策を推進する。

また、離島・過疎地域の定住条件の改善を図り、自立的な地域づくりを支援すべく、地域特性に配慮した道路整備を推進する。

さらに安全で快適なゆとりある道路空間を創出するため、交通安全対策の推進、歩道の設置や必要幅員の確保、無電柱化に取り組むとともに、生活基盤の機能維持・強化を図る橋梁等の耐震・長寿命化対策を推進する。



一般県道幸地インター線 整備状況（令和7年7月現在）

■道路現況

令和5年4月1日現在

道路種別	路線数	実延長 (km)				改良		舗装		道路延長 (km)	橋梁		トンネル延長 (km)	未使用区間延長 (km)
		延長	現道	旧道	新道	延長 (km)	率 (%)	延長 (km)	率 (%)		橋数	延長 (km)		
一般国道	10	506.1	434.9	48.4	22.8	501.9	99.2	496.6	98.1	462.7	374	32.2	11.3	507.5
指定区間	(2) 6	332.2	283.9	27.6	20.7	332.2	100.0	332.2	100.0	293.8	262	27.9	10.5	18.5
指定区間外	(2) 6	173.9	151.0	20.8	2.1	169.7	97.6	164.4	94.5	168.9	112	4.3	0.8	489.0
県道計	143	1,086.3	987.4	89.5	9.4	1,015.0	93.4	975.4	89.8	1,049.5	511	31.7	5.2	74.7
主要地方道	25	412.6	370.7	38.9	3.0	396.3	96.0	394.4	95.6	400.7	206	9.0	2.9	11.1
一般県道	118	673.7	616.7	50.6	6.4	618.7	91.8	581.0	86.2	648.8	305	22.7	2.3	63.6
国県道計	153	1,592.4	1,422.3	137.9	32.2	1,516.9	95.3	1,472.0	92.4	1,512.2	885	63.9	16.5	582.2
市町村道計	16,887	6,617.9	6,617.9	0.0	0.0	4,334.5	65.5	2,795.0	42.2	6,594.7	1,484	22.6	0.7	89.9
総計	17,040	8,210.3	8,040.2	137.9	32.2	5,851.4	71.3	4,267.0	52.0	8,106.9	2,369	86.5	17.2	672.1

注) 1. 路線数欄の()書きは、同一路線が指定区間、指定区間外両方に重複しているものである。

2. 高速自動車道(沖縄自動車道57.3km)を除く。

3. 玉城那覇自転車道線は路線数のみ計上。

4. 改良欄の国・県道は車道幅員5.5m以上、市町村は5.5m未満を含む。舗装欄は高級、セメント舗装である。

5. 各数値欄は、単位未満を四捨五入しているため、道路施設現況調書と数値が合致しない場合がある。

■完成離島架橋 (県施工)

橋名	市町村名	区間	着工年度	開通年度	橋長 (m)
羽地奥武橋	名護市	本島～奥武島	S55	S56	77
瀬底大橋	本部町	本島～瀬底島	S47	S59	762
慶留間橋	座間味村	慶留間島～外島	S58	S63	240
池間大橋	宮古島市	宮古島～池間島	S56	H3	1,425+99
屋我地大橋	名護市	屋我地島～奥武島	S63	H4	300
浜比嘉大橋	うるま市	平安座島～浜比嘉島	S63	H8	900
世開橋	うるま市	本島～平安座島	H7	H9	96
平安座海中大橋	うるま市	本島～平安座島	H3	H9	280
阿嘉大橋	座間味村	阿嘉島～慶留間島	H1	H10	530
野甫大橋	伊平屋村	伊平屋島～野甫島	H11	H15	320
古宇利大橋	今帰仁村～名護市	屋我地島～古宇利島	H5	H16	1,960
ワルミ大橋	名護市～今帰仁村	本島～屋我地島	H11	H22	315
伊良部大橋	宮古島市	宮古島～伊良部島	H13	H26	3,540
乗瀬橋	宮古島市	伊良部島～下地島	H25	H31	117
桃園橋	うるま市	宮城島～平安座島	H24	R1	27

※池間大橋の橋長は、本橋+世渡橋(開口部)で表示 ※慶留間橋と阿嘉大橋は県代行業

4空 港

■事業概要

本県は多くの島嶼から構成されており、東西約1,000km、南北約400kmの広い海域に37の有人離島が点在している。このような地理的特性から、離島空港は民生安定と地域振興に重要な役割を果たしている。

現在、沖縄県が管理する地方管理空港は、石垣、宮古、久米島、与那国、南大東、北大東、多良間、伊江島、粟国、慶良間、波照間及び下地島の12空港が設置されており、離島地域の交通ネットワークを形成している。

これら離島空港においては、定住条件の整備、観光振興、防災、保安の視点から、安全で利便性の高い交通ネットワークを確保するため、空港施設の保守、空港の耐震化、国際拠点機能強化、LCC(格安航空会社)を含む航空路線の拡大等を踏まえた整備に取り組んでいるところである。

石垣、下地島空港では、アジアの都市との国際航空路線が就航するなど、宮古・八重山圏域と国内外を直接結ぶ空の玄関口として多くの旅客を迎え入れており、石垣空港では国際線ターミナルを拡張整備し、令和4年に供用した。

また、下地島空港では、平成31年3月に「みやこ下地島空港ターミナル」が開業、令和2年9月に「下地島宇宙港事業」、令和5年9月に「旅客ターミナルのネット・ゼロカーボン化事業」を開始し、民間事業者による空港の活用がなされている。

さらに、令和8年度は、宮古空港及び久米島空港において航空機の安全・円滑な運航に不可欠な滑走路端安全区域の整備に取り組むとともに、下地島空港では、老朽化の進んでいる施設の更新・改良として滑走路改良、宮古空港及び与那国空港では、航空灯火施設の更新等を実施し、航空の安全・安心の確保に取り組む。



下地島空港



久米島空港

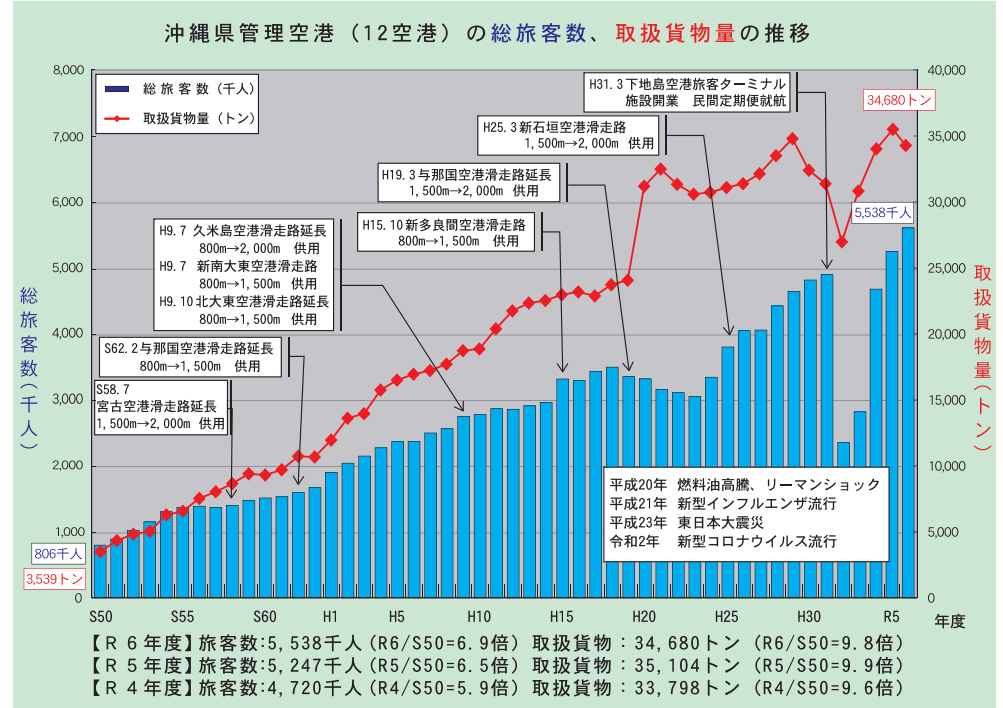


宮古空港



与那国空港

■県管理空港の旅客数、取扱貨物量の推移



■空港施設概況

空港名	設置管理者	種別	供用開始年月日	施設区分							備考		
				着陸帯(m)	滑走路(m)	誘導路(m)	エプロン(m)	照明施設	航行・着陸援助施設	ターミナルビル(m)		駐車場(m)	
石垣	沖縄県	地方管理空港	平成25年3月7日	2,120×300	C級	2,000×45	2,318×23~30	86,308	航空灯火一式	VOR/DME ASR/SSR ATIS	16,390	39,359	
宮古	"	"	昭和58年7月1日	2,120×300	C級	2,000×45	460×30	29,590	航空灯火一式	ILS VOR/TAC	10,947	37,600	
久米島	"	"	平成9年7月18日	2,120×150	C級	2,000×45	112.5×30	19,800	航空灯火一式	ILS VOR/TAC	4,917	27,700	
与那国	"	"	平成19年3月15日	2,120×150	C級	2,000×45	80×23	10,200	航空灯火一式	ILS VOR/TAC	1,398	2,946	
南大東	"	"	平成9年7月20日	1,620×150	D級	1,500×45	77.5×18	7,700	航空灯火一式	VOR/DME	1,061	3,010	
北大東	"	"	平成9年10月9日	1,620×150	D級	1,500×45	77.5×18	7,700	航空灯火一式	-	958	2,390	
多良間	"	"	平成15年10月10日	1,620×150	D級	1,500×45	77.5×18	7,700	PAPI RWYTIL	-	989	3,256	
伊江島	"	"	昭和50年7月20日	1,620×150	D級	1,500×45	75×18	7,700	-	-	504	1,300	
粟国	"	"	昭和53年7月6日	920×60	H級	800×25	30×9	2,000	PAPI RWYTIL	-	328	1,000	
慶良間	"	"	平成6年11月10日	920×60	H級	800×25	30×9	3,000	PAPI RWYTIL	-	372	1,332	
波照間	"	"	昭和51年5月18日	920×60	H級	800×25	30×9	2,000	PAPI RWYTIL	-	326	1,100	
下地島	"	"	昭和54年7月5日	3,120×300	A級	3,000×60	3,880×30	129,200	航空灯火一式	ILS VOR/DME ASR/SSR	12,027	6,730	